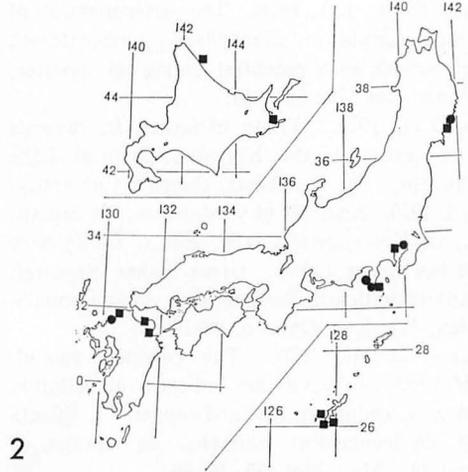
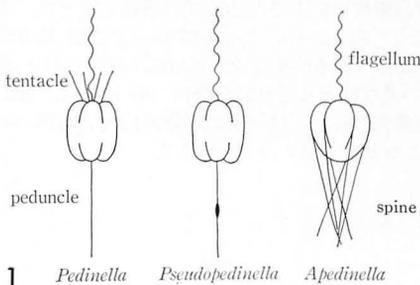


井上 勲・堀口健雄：微細藻類ノート(4). *Pseudopedinella pyriformis* CARTER および *Apedinella spinifera* (THRONSDEN) THRONSDEN (黄金色藻綱). Isao INOUE and Takeo HORIGUCHI: Notes on microalgae in Japan (4). *Pseudopedinella pyriformis* CARTER and *Apedinella spinifera* (THRONSDEN) THRONSDEN (Chrysophyceae).

ペディネラ目 (Pedinellales) は単細胞性で、6個の葉緑体と翼のついた特異な鞭毛を前端にもつことで、黄金色藻綱 (Chrysophyceae) の他のグループとは著しく異なる (HIBBERD 1976)。この目は *Pedinella*, *Pseudopedinella*, および *Apedinella* の3属よりなり、図1に模式的に表すように、触手様突起物 (tentacles), 柄 (peduncle), および棘 (spines) の有無によってそれぞれ区別される。

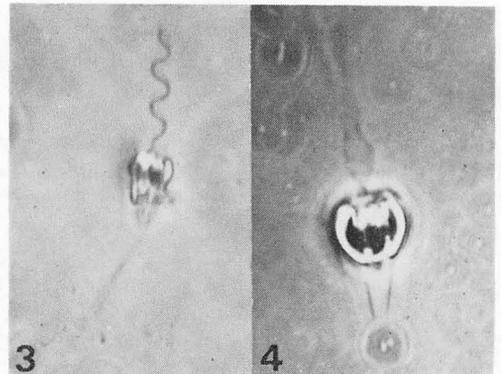
ペディネラ目のメンバーのうち、*Pseudopedinella* の基準種 *P. pyriformis* (図3) は、図2に■印で示すように、わが国各地の河口域に広く分布することが、筆者等の調査によって明らかになった。多くの場合、サンプリング時の個体数は限られているが、栄養物添加により容易に藻体を増殖させることができる (井上, 1980)。細胞はたる状で縦に規則正しく6列の隆起部があり、前端正面からみると全形はやや六角形にちかい。長さ5~8 μm, 幅4~8 μm である。葉緑体の変形しているために、細胞の後端部はしばしば不規則な形をとる。前端、後端ともにわずかな凹部があり、前端から1本の鞭毛が生じ、後端からは柄とよばれる尾状の付属物が伸びる。柄の中間部にはしばしばレンズ状の膨潤部がある。葉緑体は板状で6個あり、細胞の隆起部に沿って縦に並ぶ。ピレノイドは突出型で、葉緑体にそれぞれ1個ずつ存在し、内方に向けて位置する。眼点はみられない。

*Apedinella* は、細胞表面の棘の有無を分類形質として重視し、THRONSDEN が1971年に設立した属で、現在までに一種が知られている。基準種 *A. spinifera* (図4) は THRONSDEN (1969) によって最初 *Pseudopedinella spinifera* として記載されたものである。



わが国ではこの種は図2に●印で示すように、採集された場所はまだまだ数地点にすぎないが、採集地点が分散していることから考えると、分布はかなり広範囲に亘るものと想像される。本種の細胞は基本的には前述の *Pseudopedinella* に類似する。すなわち前端に6つの隆起部があり、前端の凹部から1本の鞭毛が前方に向かって伸びる、細胞の長さは8 μm, 幅は8 μm である。しかし、後端には凹部がなく、むしろ丸みをおびていること、および前端の凹部から通常6本の棘がそれぞれ6つの隆起部の間の凹部に沿って後方に伸びることによって区別される。棘の長さはいずれもほぼ等長で約12 μm である。葉緑体は6個で、6つの隆起部に沿って縦に位置し、それぞれ内方に突出したピレノイドをもつ。眼点はみられない。

*Pedinella* については、わが国における報告はない。



引用文献

HIBBERD, D. J. 1976. Bot. J. Linn. Soc. 72: 55-80.  
井上勲 1981. 藻類 29: 6.  
THRONSDEN, J. 1969. Nytt Mag. Bot. 16: 161-216.  
THRONSDEN, J. 1971. Norw. J. Bot. 18: 47-64.